

# 平成 30 年度 保育所自己評価

社会福祉法人さいわい福祉会  
野ばら保育園  
野ばら第二保育園

## I. 運営面

- 国をあげての待機児童解消の取り組みが進み、宗像市でも保育所新設、既存施設の増築、増員が急速に進み、ここ何年かは保育士不足となっている。
- 当園でもその傾向にあり、新卒の入社が殆んどなくなり、求人サイト、派遣紹介採用でつないでいる。その上、職員の高齢化も進み、60 歳以上の就業率が高くなった。退職者は、結婚や定年退職者の他に、心身の健康上の理由や親の介護の理由で退職を余儀なくする職員も出ている。求人対策に苦慮している。余分の人員の確保や子育て支援員、育成にも積極的に取り組み、余裕を持った人員体制を目指し、現在就業中の職員が余裕を持って勤務に臨めるように、業務体制の在り方を主任及びキャリア取得者を中心にみんなで考えているところである。
- 働きやすい環境を目指して就業規則の見直し、処遇改善、人的環境の整備をし、今年度は職員のメンタル面での向上を図る為、講師による研修・グループワーク等を取り組んだ。
- このような状況の中でも、入所児童の保育の質が落ちないように、研修討議を進めている。30 年間積み上げている野ばらの保育の方法、関わり、へやの空間の作り方（野ばらの保育メソッド）が一貫しているのも、新入職員もその路線で実践し、子ども達は落ち着いて保育を受け、発達している。
- 安全、快適、効率的な保育環境づくりを取組み、働き方改革をする為に 3S（整理・整頓・清掃）を学び合う。講師に佐々木敬啓先生を招き、園内研修を取り組む。「時を守り、場を淨し、礼を正す」という職場の三原則を全員で認識し、まずは各園が具体的に出来る整理・整頓から実行した。今後いかに改善意識を継続できるかが課題である。

## II. 保育内容面

## 野ばら保育園

30年度の保育テーマは「つながる保育」～みんなの目と目 手と手 心と心～

このキャッチフレーズに基づき、子どもと子ども、子どもと大人、大人と大人の関係が深まるよう保育園ならではの集団保育を展開していく。保護者の方ともつながり、お子様を真中にして集団の中で一人一人の成長、発達を見守り、手助けしていくようにした。

外部講師の居関先生より運動不足と指摘され、体を動かす運動を意識していく。リズム運動の他に「サーキット遊び」を新しく取り組む。サーキット遊びに取り組むにあたって正進幼稚園に見学に行き、野ばらの環境に応じて運動を展開していく。リズム運動とサーキット遊びのバランスを取りながら楽しんでいった。朝一番に体を動かしてリラックスする事で一日の始まりが活発になっている。この運動を通して一人一人の運動発達段階を知り、一人一人に応じた運動能力の助長や勇気づけをして、秩序感、非認知能力、持続力等がよく育っていると感じる。未満児は遊びの充実という事で、3コーナー（ままごとコーナー・積木コーナー・机上コーナー）に各保育士がついて遊びを提供、促していく。保育士がねらいを持って関わり、一人一人の発達を助けていく事につながり、クラスも落ち着いて良い遊びの展開が広がっていている。又、未満児保育士の専門性の向上にもつながっている。

### 保育環境

全体として、3S（整理・整頓・清掃）に取り組む。

最初に園長、主任、リーダー保育士がセミナーに出席して学んでくる。これは全職員学んだ方が良いという事になり、講師を招いて園内研修をする。野ばら保育園では早速、きりんぐみの倉庫等を片付け、効率的になった。各クラス棚の上に物を置かない等、意識しながら取り組んでいっているところで、子どもに対しては衛生、清潔を与え、大人同士では仕事がより捗るようになるように継続できればよいと感じている。

# 平成30年度 保育所自己評価

## 保育内容面

## 野ばら第二保育園

### つながる保育

30年度の保育のテーマは「つなげよう みんなの 目と目 手と手 心と心」とした。今、メディア社会になり便利になってきた反面、人間関係は希薄になり、子ども達の遊びもビデオやゲームなど相手を必要としない遊びが多くなり会話も減少している。そんな時代だからこそ保育園でしか出来ないことを沢山経験しながら、子どもを真ん中にして子どもと子ども、子どもと保育士、保護者と保育士、、職場の仲間とのつながりなど、人のつながりを深めて子ども達の豊かな成長を支えていけるように、つながる心を大切に保育を進めていった。

未満児クラスでは、あそびの充実に取り組んだ。子どもはあそびの中から学ぶので、あそびの充実を、3クラスともに3コーナーの充実として取り組む。3コーナー（机上あそび、構築あそび、ごっこあそび）に大人がしっかり位置づき、あそびのテーマやねらいを明確にして子ども達にあそびを提供していった。日誌の書き方も、2週案として進めていく。健康安全・あそび（3コーナー）・わらべうた・家庭支援・個人配慮・クラス運営についてねらいを定め、2週間後、評価・反省をする形式にすると捉えやすくあそびのつながりもよくみえてきた。しっかりあそびの所に保育士が位置づき、ねらいをもってあそびに向かうので、子どもの発達に合わせたり、子ども達の興味を持っている所から保育を進められたのが良かった。

以上児クラスでは、運動あそびで子ども達の運動量不足が課題となったので、子どもの運動あそびの量を増やしていった。リズム運動や運動あそび（マット、鉄棒、登り棒、うんてい、竹馬など）は引き続き行っていたが、少し大人が慣れすぎてきている部分もあり、また、他の行事や保育活動が忙しくなり運動あそびの面が少なくなっていた現状があった。居関先生より、実践研修の際に、今までより運動量の不足があるようだと伝えられた。そこで、正進幼稚園のサーキット運動を見学するなどもう一度初心に戻り、日頃のあそびの中での運動量を上げるようにしていく。年齢に合わせて運動内容を組み合わせ、朝サーキットを行うことになり、子ども達が快々とした生活のスタートをきれるようになり、徐々に運動量が増えていった。リズム運動とサーキットのバランスを考え直し、週の取り組みを明確にしていく。体を動かす事は脳の働きにもとても良い影響を与えるので、これからも保育士がしっかりと意識を持って取り組むようにする。また、子ども達が体を動かす事が楽しいと思えることを第一に、非認知能力（1. 目標に向かってあきらめずに“やりぬく力” 2. 感情をコントロールする“自制心” 3. 人と上手に関わる”コミュニケーション能力“）も高めるようにしていきたい。

3Sセミナーの園内研修により、職場の3原則を学ぶ。3S（整理、整頓、清掃）や職場の3原則（時を守り、場を淨し、礼をすること）の大切さを学び、時間の無駄遣いをしないこと、物を大切にすることと同時に物を活かすことそのためにも3Sは必要なので、出来る所から倉庫の棚の片付けなどを行い、仕事するとき物を探すことに時間をさかなくてもいいように、きちんと整理、整頓をこれからも続けて行うようにする。